

CASBEE広島における重点項目の環境配慮設計概要

※下表の空欄に環境配慮設計の概要をコメントしてください。

配 慮 項 目	評価点	重み係数	内 訳			
■1.「地球温暖化対策」の推進						
1.1 建物の熱負荷抑制						
(コメント) ※配慮事項を簡潔に記載してください 外皮及び窓の断熱性能を高め、住宅性能評価の温熱環境に関する点において等級4を確保している。	5.0	1.00	Q1 室内環境	2 温熱環境	2.1 室温制御	3 外皮性能
	5.0	0.22	LR1 エネルギー	1 建物の熱負荷抑制		
小計	5.0	0.22				
1.2 自然エネルギーの利用						
(コメント) ※配慮事項を簡潔に記載してください	2.0	0.50	LR1 エネルギー	2 自然エネルギー利用	2.1 自然エネルギーの直接利用	
	3.0	0.50	LR1 エネルギー	2 自然エネルギー利用	2.2 自然エネルギーの変換利用	
小計	2.5	0.11				
1.3 設備システムの高効率化						
(コメント) ※配慮事項を簡潔に記載してください。□ 適切な照明計画を行った。	4.1	1.00	LR1 エネルギー	3 設備システムの高効率化		
小計	4.1	0.22				
1.4 設備システムの効率的運用						
(コメント) ※配慮事項を簡潔に記載してください	4.0	0.22	LR1 エネルギー	4 効率的運用	4.1 モニタリング	
	4.0	0.22	LR1 エネルギー	4 効率的運用	4.2 運用管理体制	
小計	4.0	0.22				
1.5 資源・マテリアル対策						
(コメント) ※配慮事項を簡潔に記載してください。□ 水資源を考慮し、節水型便器を採用。また、解体時を考慮し、非構造材料にエコマーク商品のリサイクル資材を採用。	4.0	0.08	LR2 資源・マテリアル	1 水資源保護	1.1 節水	
	3.0	0.12	LR2 資源・マテリアル	1 水資源保護	1.2 雨水利用・雑排水再利用	1 雨水利用システム導入の有無
	3.0	0.06	LR2 資源・マテリアル	1 水資源保護	1.2 雨水利用・雑排水再利用	2 雑排水再利用システム導入の有無
	2.0	0.06	LR2 資源・マテリアル	2 非再生性資源の使用量削減	2.1 材料使用量の削減	
	3.0	0.19	LR2 資源・マテリアル	2 非再生性資源の使用量削減	2.2 既存建築躯体等の継続使用	
	3.0	0.16	LR2 資源・マテリアル	2 非再生性資源の使用量削減	2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	
	5.0	0.16	LR2 資源・マテリアル	2 非再生性資源の使用量削減	2.4 非構造材料におけるリサイクル材の使用	
	2.0	0.04	LR2 資源・マテリアル	2 非再生性資源の使用量削減	2.5 持続可能な森林から産出された木材	
	4.0	0.19	LR2 資源・マテリアル	2 非再生性資源の使用量削減	2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	
小計	3.5	0.32				
1.6 ライフサイクルCO2排出率						
(コメント) ※配慮事項を簡潔に記載してください 住宅性能評価の劣化対策を等級3となるよう配慮した。(住宅が限界状態に至るまでの期間が3世代以上と言われる)	4.9	1.00	LR3 敷地外環境	1 地球温暖化への配慮		
小計	4.9	0.14				
1.「地球温暖化対策」の推進の評価	4.0	0.67				
■2.「ヒートアイランド対策」の推進						
2.1 温熱環境の向上						
(コメント) ※配慮事項を簡潔に記載してください。 適切な緑化計画を行った。	2.0	0.49	Q3 室外環境(敷地内)	1 生物環境の保全と創出		
	4.0	0.24	Q3 室外環境(敷地内)	3 地域性・アメニティへの配慮	3.2 敷地内温熱環境の向上	
	3.0	0.27	LR3 敷地外環境	2 地域環境への配慮	2.2 温熱環境悪化の改善	
小計	2.8	0.97				
2.2 交通負荷抑制						
(コメント) ※配慮事項を簡潔に記載してください。 適切な量の駐車場、自転車置場を確保した。	4.0	1.00	LR3 敷地外環境	2 地域環境への配慮	2.3 地域インフラへの負荷抑制	3 交通負荷抑制
小計	4.0	0.03				
2.「ヒートアイランド対策」の推進の評価	2.8	0.18				
■3.「長寿命化対策」の推進						
3.1 耐用性の向上						
(コメント) ※配慮事項を簡潔に記載してください。 外装にはタイル貼りではなく外装複層塗装とすることにより、補修間隔が短くなるのをおさえ、衛生設備の給水及び排水管は概ね40年以上の耐用年数が見込める配管を採用した。	3.0	0.47	Q2 サービス性能	2 耐用性・信頼性	2.1 部品・部材の耐用年数	1 耐震性
	3.0	0.12	Q2 サービス性能	2 耐用性・信頼性	2.1 部品・部材の耐用年数	2 免震・制振性能
	5.0	0.09	Q2 サービス性能	2 耐用性・信頼性	2.2 部品・部材の耐用年数	1 躯体材料の耐用年数
	5.0	0.09	Q2 サービス性能	2 耐用性・信頼性	2.2 部品・部材の耐用年数	2 外壁仕上げ材の補修必要間隔
	2.0	0.04	Q2 サービス性能	2 耐用性・信頼性	2.2 部品・部材の耐用年数	3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔
	3.0	0.03	Q2 サービス性能	2 耐用性・信頼性	2.2 部品・部材の耐用年数	4 空調換気ダクトの更新必要間隔
	5.0	0.06	Q2 サービス性能	2 耐用性・信頼性	2.2 部品・部材の耐用年数	5 空調・給排水配管の更新必要間隔
	2.0	0.09	Q2 サービス性能	2 耐用性・信頼性	2.2 部品・部材の耐用年数	6 主要設備機器の更新必要間隔
小計	3.4	0.47				
3.2 設備の更新性						
(コメント) ※設計の計画上添花に配慮した事項を記載してください。	3.0	0.17	Q2 サービス性能	3 対応性・更新性	3.3 設備の更新性	1 空調配管の更新性
	3.0	0.17	Q2 サービス性能	3 対応性・更新性	3.3 設備の更新性	2 給水配管の更新性
	3.0	0.11	Q2 サービス性能	3 対応性・更新性	3.3 設備の更新性	3 電気配線の更新性
	3.0	0.11	Q2 サービス性能	3 対応性・更新性	3.3 設備の更新性	4 通信配線の更新性
	3.0	0.22	Q2 サービス性能	3 対応性・更新性	3.3 設備の更新性	5 設備機器の更新性
	3.0	0.22	Q2 サービス性能	3 対応性・更新性	3.3 設備の更新性	6 バックアップスペース
小計	3.0	0.53				
3.「長寿命化対策」の推進の平均点(上記2項目)	3.2	0.15				
■重点項目の総平均(上記3項目)	3.7					